



大和村フィールドワーク

～村民主体の互助力を活かした地域づくりから学ぶ～

地域連携事業

大和村との連携協定の一環で実施している大和村フィールドワークが2月13日から4日間の日程で行われ、社会福祉学科の学生10名が参加しました。

村内に宿泊しながら、村民の生活の様子や地域支え合い活動についての聴き取り、若者目線で地域資源の発見や課題解決に取り組みました。医療・介護以外にもインフラの資源が限られた環境を背景に、村民主体の互助力を活かした地域づくりが展開されていました。

一方で、伝統文化の衰退、買い物支援、後継者不足などの課題が見えてきました。これまで利便性は高くあればあるほどよいと感じていましたが、村民の生活や集落への思いを重視した施策や地域活動を行うことが重要であることを学びました。



ふるさと水土里の探検隊事業報告会

地域連携事業

1月27日、「ふるさと水土里の探検隊事業」最終報告会がZoomで実施され、経営学科の西ゼミが参加しました。



はじめに、西准教授による住民アンケート調査の結果報告が行われ、その後、ゼミ生による吉利地区の活性化に向けた提言があり、参加者からは「自治体や大学と連携することの大事さを改めて感じた」などの意見がでました。

担当教員の西准教授は「数多くの空き地・空き家は、むしろ地域のポテンシャル。ゼミ生が提言した夜間マルシェやモルック大会の開催など、何か一つでも現地で実践して頂けたら有り難い」と述べています。



弥生時代遺跡で3Dデジタル記録

国際文化学科 中園ゼミ

中園ゼミ(考古学・博物館学)の学生が、3月16日、日置市吹上町の入来遺跡と白寿遺跡を調査しました。

この調査では、土器片などの散布状況を地表で確認し遺跡の規模を把握することと、3Dなど各種デジタル技術で遺跡内の主要箇所を記録し、研究や教育普及など幅広い利用が可能になるデータを得ることを目指しました。

小さな土器のかけらも過去の事実を語る重要な証拠。学生たちは外来の土器を見つけては興味深そうに観察していました。



さらに、遺跡内にある「支石墓」とされる大石、地層が見える崖などで、簡易3D計測(LiDAR)や、写真画像から精細な3Dモデルを得るフォトグラメトリ(SfM-MVS)などに挑戦しました。

絶滅危惧種の 野鳥観察

児童学科 鮫島ゼミ

鮫島ゼミは1月21日、いろいろな種類の野鳥が生息する万之瀬川流域及び吹上浜海浜公園での野鳥観察フィールドワークを実施しました。



南薩少年自然の家の協力も得て、参加したゼミ生は自然の家から借用した双眼鏡を操作し、マガモ、カルガモ、ダイサギ、アオサギ、ヒヨドリなどじっくり観察しました。新聞等で報道されていた絶滅危惧種に指定されているクロツラヘラサギ19羽を確認できた時は、ゆっくり時間をかけて、万之瀬川に入って小魚を平べったいくちばしを巧みに動かして捕食する様子などを観察しました。



新型コロナ禍で野外活動が制限されていた学生たちにとっては、南薩地区の万之瀬川流域や吹上浜海浜公園に生息する動物や植物等の自然のすばらしさを五感を通して体感でき、良い経験となりました。

スポーツをとおしての インクルーシブ理解

経営学科 中西ゼミ

12月2日、中西ゼミが「ブラインドサッカーを活用したインクルーシブ教育イベント」を本学フィールドハウスで開催しました。



これは鹿児島県サッカー協会インクルーシブ委員会の委員を務める中西孝平准教授が企画し、毎年開催しているイベントで、ブラインドサッカーを活用したワークを通してインクルーシブ社会に対する理



解を深めることをねらいとしています。中西ゼミ生は、普段あまり経験する機会のないブラインドサッカーを楽しむと同時に、深い学びを得ることができました。

枕崎市の魅力について学ぶ

国際文化学科 武藤ゼミ

武藤ゼミは、10月28日のフィールドワークで、鹿児島県枕崎市について学びました。

はじめに、薩摩酒造花渡川蒸留所明治蔵の見学をさせていただきました。ここでは、鹿児島県産の芋コガネセンガンを主な原料に、薩摩に伝わる昔の名残を大切に焼酎製法が受け継がれています。さらに、子供達の夏休み課題が飾ってあったり、特産物を使ったお昼ご飯をいただいたり、地元の特徴を生かして教育・広報を支えていることに気付かされました。



次に訪れたのは、枕崎市文化資料センター南浜館です。「果ての鉄道展」ということで、鹿児島の鉄道の歩み、物資や人を他県に運んだ経路・課程について、パネルや電車の模型から幅広い年代の方が楽しく学べる空間となっていました。入り口までの道や受付でも鉄道にちなんだ工夫が細部まで施されており、非常に興味深かったです。そののちに、日本最南端の枕崎駅へ足を向けると、今までとはまた違った趣がありました。



実際に枕崎市に足を運んでみて、ネットや言文では推し量れない現地の魅力に驚かされ、それと同時に、もっとたくさんの人に伝え広めたいと感じました。
(国際文化学科2年 黒朧音葵)

畜産業と食文化について学ぶ

経済学科 渡辺ゼミ

渡辺ゼミは11月21日、授業で学んだ鹿児島県畜産業と食文化について学ぶため、フィールドワークを実施しました。



肝付町の新村畜産の焼肉本園にて牛・豚の部位に関する説明を聞きながら食事をとり、午後からJA鹿児島きもつき農協で下小野田組合長より、地域農業振興に果たしているJAの役割や2022年日本一になった牛共進会でのJAの活躍についてレクチャーを受けました。その後、鹿屋航空基地史料館を訪問し、太平洋戦争や平和、自衛隊が今日果たしている役割などについて学びました。



総勢33名の10時間にわたるフィールドワークでしたが、ゼミ生からは「鹿児島の畜産について深く学ぶことができ、周りのメンバーとの交流もできた良いフィールドワークだった」などの感想も出て、きわめて充実したものとなりました。